

第53回 “兵庫県少年剣道の集い” 実施要項

1. 目的 小学生を対象に、正しい剣道の普及発展と心身ともに健全なる児童の育成発展を図る。
2. 主催 (公財) 兵庫県剣道連盟
3. 後援 兵庫県 ・ 兵庫県教育委員会
(申請中) (公財) 兵庫県体育協会 ・ 神戸市 ・ 神戸新聞社
(公財) 神戸市スポーツ教育協会
4. 日時 令和 2年 6月13日(土) 午前9時受付
5. 会場 神戸常盤アリーナ(兵庫県立文化体育館)
神戸市長田区蓮池町1-1 TEL(078)631-1701
6. 試合方法 (1) 全日本剣道連盟 試合・審判規則とその細則による。
(2) チームの編成は選手5名、補欠2名とし、元立ちは選手が交代でつとめる。
予選リーグは、基本団体試合と1本勝負の2試合を行う。
(原則として3チームによるリーグ戦) (別添「試合錬成実施要領」参照)
(3) 決勝トーナメントは団体別対抗試合とし、試合時間は2分、試合時間内に
勝敗が決しない場合は引き分けとする。チームの勝敗は、勝者数法により、
代表者戦は一本勝負とする。 (別添「試合錬成実施要領」参照)
7. 表彰 上位8チーム(ベスト8)を表彰する。
ただし、優勝旗、知事杯、入賞カップ(2位・3位)は持ち回り制とする。
8. 第15回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会出場選手の選考について
上位8チーム(ベスト8)のチームから、小学生チームの選手5名を兵庫県剣道
連盟の任命する選考委員により選考する。監督は別途兵庫県剣道連盟が選考し委
嘱する。(チーム編成は5年生以上の者とし、男女・学年等の制限はない。)
9. 参加資格 (公財) 兵庫県剣道連盟に加盟している少年団体に所属し、大会当日、県内小学
校在籍であること。なお、1団体が1チームが組めない団体同士の混成は可とす
る。理由書を添付して申請し、申込書の団体名略称欄に混成団体名を全て記入す
る。名札は夫々の団体名のものをつけること。
但し、1団体が1チームが編成できるにもかかわらず、他団体から選手を補強
して編成する選抜チームの参加は認めない。
10. 参加料 1チーム 5,000円(傷害保険料を含む。)
11. 参加申込 所定の申込書(1部)によって申し込み、在籍小学校名・学年を明記すること。
混成チームは、申込書に混成した団体名をすべて明記し、選手名の後に所属団体
名を明記すること。
(申込先) 〒657-0838 神戸市灘区王子町1-2-8 虹ヶ池ハイツ201号
公益財団法人 兵庫県剣道連盟
TEL(078)861-5145
12. 申込期日 令和 2元年 4月27日(月) 必着
13. メンバー変更 当日の選手交代は、試合場の審判主任に申し出て、補欠をその欠けた所にいれる。
違反した場合は、失格とする。

14. 参加上の注意 (1) 申込書に記入した児童引率責任者(監督)は、チームの全責任を持つこと。
 (2) 出場者の服装は、剣道着、袴とする。
 (3) 垂には、所属団体名並びに姓を明記すること。(小学校名は不可。)
 (4) 赤白の目印は各チームで準備し、当日持参すること。
 (5) 前年度の入賞チーム(3位まで)は、持ち回りの優勝旗及びカップを忘れずに持参すること。
 (6) 出場者に試合規則、礼法を周知徹底しておくこと。
 (7) 体育館使用上の注意事項を厳守すること。
 (8) 男子の更衣は、観覧席又はスポーツ館3F体育室を使用する。
 女子の更衣は、1F女子更衣室を使用。(荷物は観覧席へ)
 (9) 待機場所・練習会場として、スポーツ館2F剣道場・3F体育室を使用可。
 * 館内でのブルーシートを敷くなどによる場所取りは禁止します。

15. 審判員 (1) 審判員は(公財)兵庫県剣道連盟から委嘱する。
 (2) 審判員の服装は、白無地半袖カッターシャツ・ノーネクタイとする。
 当日、公認審判員章を持参すること。

16. その他 (1) 主催者は、大会中の負傷等に対する応急処置のほかは、責任を負わない。
 (2) 試合出場チームは、試合当日各会場の進行係主任に、次のメンバー表をそれぞれ1枚提出すること。
 ① 基本錬成試合並びに1本勝負用(1枚)
 模造紙を横長4等分(幅20cm×長さ110cm)にし、下記のとおり分割して使用する。
 ② トーナメント試合用(1枚)
 模造紙で「幅20cm×長さ80cm」のものとする。

		← 110cm →											
		(基本錬成試合)						(1本勝負)					
↑	団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	空白	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	空白
↓													
→ 15cm		← 15cmを残して二つに折り、さらに三等分して二つに折る。(12等分になる) →											

↑	団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
↓						
(六つに折る)						
← 80cm →						

- ③ いずれの表も**団体名(5文字以内)**と選手の姓のみを記入すること。
 ただし、同姓の場合は、名前の一文字を右下に記入すること。

* メンバー表の団体名及び選手の姓は、墨又は太字黒マジックで大きく、わかりやすく書いてください。

以 上

試合錬成実施要領

1. 試合の組合せは、昨年度の成績（優勝～3位）を考慮し、予選リーグは同一地区の対戦を避けて、大会本部において作成する。
2. 審判員は3人制で実施する。
3. 選手の使用する竹刀の長さは108cm（約3.6尺）以下とする。
4. 大会内容

（1）予選リーグは、基本団体試合（基本錬成試合）と1本勝負の2試合を行う。（原則として3チームによるリーグ戦）

（ア）予選リーグ対戦順序（チーム番号の若い順番に I、II、III、IV として）

* 3チームの場合

第1試合 I — II
第2試合 I — III
第3試合 II — III

* 4チームの場合

第1試合 I — II
第2試合 III — IV
第3試合 I・IIの勝者 — III・IVの勝者
第4試合 I・IIの敗者 — III・IVの敗者
第5試合 第3試合の勝者と第4試合の勝者がまだ対戦していない場合のみ第5試合を行う。

（イ）試合の内容 ① 切り返し、打ち込み稽古 ② 1本勝負

（ウ）基本団体試合の詳細

① 選手同士が元立ちになり、次のとおり元立ちを交代する。

掛かり：先鋒、次鋒、中堅、副将、大將

元立ち：大將、先鋒、次鋒、中堅、副将

② 主審の合図により先鋒の選手から下記の基本を続けて行う。

切り返し・・・・・・正面打ち→前進して左右面4本、後退して左右面5本→正面打ち。以上2回繰り返す。

打ち込み稽古・・・・・・「打ち込み稽古」とは、元立ちが与える打突の機会をとらえて打ち込んで打突の基本的な技術を体得させる稽古の方法である。

従って、充実した気力で遠間から大技で、正しく、間合・姿勢等に留意し基本技・連続技・体当たり・引き技等を繰り返して打突させる。

（注）全国大会では、応じ技を必ず入れることになっているが、県下の大会は評価の対象としない。

③ 時間は、切り返し・打ち込み稽古を含み40秒とする。（各コートの時計係が計時を行う）

④ 切り返し終了後引き続き打ち込み稽古に入る。（元に戻らない）

（エ）基本団体試合（基本錬成・一本勝負）要領及び審判要領

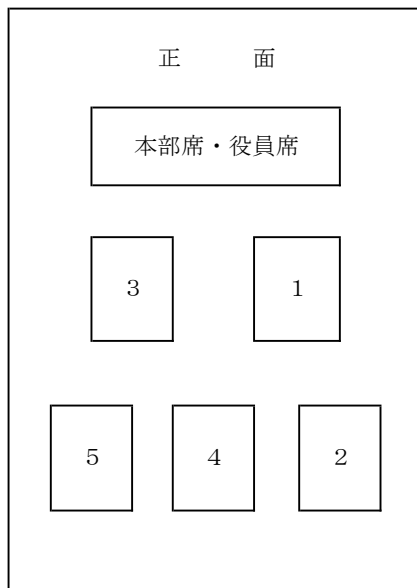
① 試合開始及び終了の際の相互の礼は、選手全員が面・小手をつけ竹刀を持って行う。

② 相互の礼及び試合の隊形は、試合場により下記のとおりとする。

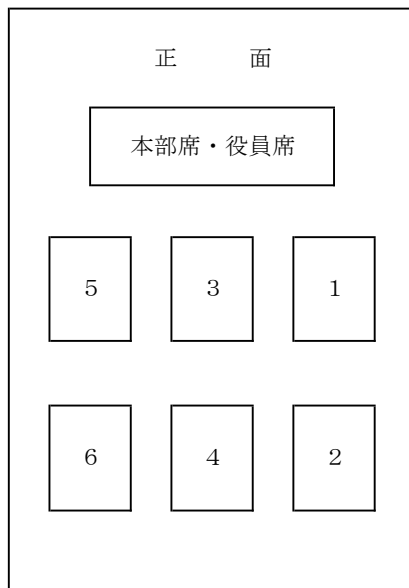
（各試合場の選手配置図）

礼法（試合前後）

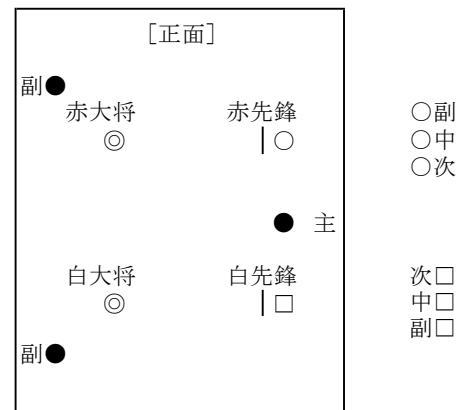
5試合場の場合



6試合場の場合



試合の隊形



- ③ 試合の開始については、元立ち及び選手は9歩の間合で立礼をした後、開始位置にて先鋒から蹲踞で待機し、主審の宣告「始め」により40秒間で切り返し、打ち込み（元に戻らない）を続けて行う。
- ④ 主審の「止め」の宣告により打ち込み稽古を終了し、判定を待つ。
- ⑤ 勝敗は、切り返し、打ち込み稽古の総合判定とする。（判定基準は、下記のとおりとする）
- ⑥ 審判員は、主審の「判定」の宣告で勝旗（赤・白）を上げる。
主審は、勝旗を調べ、判定勝ちの方の旗を上げ「勝負あり」と宣告する。（宣告と同時に上げた旗を下ろす）

(オ) 試合要領と評価の仕方

- ① 試合は基本団体試合（基本錬成試合）と1本勝負を先鋒から大将の順に引き続いて行う。
- ② 1本勝負の試合時間は1分とし、時間内に勝敗の決しない場合は引分けとする。
- ③ 評価は10人の勝者数・勝本数により勝チームを決定する。同数・同本数の場合は基本団体試合で勝ったチームを勝とする。（1本勝負での勝本数は1本とする）
- ④ 当該チームが赤白どちらになるかは、組み合わせの若い番号を赤とする。

(例)

団体名	内 容 順 番	基本団体試合					1本勝負					勝 本 数	勝 者 数	勝 本 数	勝 者 数
		先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 本 数	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将			
A 道 場		足 立	荒 川	板 橋	江 戸 川	大 田	勝 者 数	足 立	荒 川	板 橋	江 戸 川	大 田	勝 者 数	勝 本 数	勝 者 数
		1	②	1	1	1	6 1	コ	メ	メ			3 3	4	9
		②	1	②	②	②	9 4				×	×	0 0	4	9
B 道 場		秋 川	昭 島	稲 城	青 梅	清 瀬	勝 者 数	秋 川	昭 島	稲 城	青 梅	清 瀬			

基本団体試合判定基準

- (A) 正しい礼法・着装等ができていますか。
- (B) 充実した気勢で大きく、正しく、速く、気・剣・体の一致で打っているか。（但し、速くとも小さく、不正確な打ちは不可）
- (C) 切り返し
 - ① 竹刀の握り方は正しいか。
 - ② 足の運びは正しいか。
 - ③ 左右面を打つ角度が約45度になっているか。
 - ④ 「正面打ち」のとき一足一刀の間合から打っているか。
 - ⑤ 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。
 - ⑥ 「左右面打ち」のとき左こぶしが正中線を通り相手の見える所まであがっているか。
 - ⑦ 「正面打ち」のとき両腕が自然に伸び左こぶしが中心（みぞおち）に納まっているか。
 - ⑧ 最後まで気合と体勢が崩れないか。

(2) 決勝トーナメントより、団体別対抗試合を下記により行う。

- ① 全日本剣道連盟 試合・審判規則による。
- ② 試合開始の際の相互の礼は、選手全員が面・小手をつけて、竹刀を持って行う。
- ③ 試合は、3本勝負・試合時間は2分とし、時間内に勝敗の決しない場合は引き分けとする。
- ④ チームの勝敗は、勝者数法により決める。同数の場合は取得本数により、取得本数同数の場合は代表者戦を行う。
代表者戦は1本勝負とし、試合時間は2分とする。時間内に勝負が決しない場合は、延長で時間を区切らず勝敗の決するまで行う。
- ⑤ 明らかに追い込まれた場合、及び見苦しい引き上げをして場外に出た場合は、場外反則とすることがある。
また、有効打突で打突後必要以上の余勢や有効などを誇示した場合は取り消すことがある。
- ⑥ つばぜり合いの指導は約10秒を目安とする。（分かれ若しくは反則）

5. その他

竹刀の検査は行いませんが、各監督は選手の竹刀の点検を各試合ごとに充分行ってください。

特に、ビニールやセロテープ等を巻いた竹刀及び先細（面金物見部に突入の恐れある）の竹刀は使用させないでください。

（注）平成11年4月1日より、規則一部改正により中結の位置が竹刀の全長の先より約4分の1になっている。

以 上

第53回兵庫県少年の集い

団体代表者 様

大会の会場案内及び諸注意を連絡致します。

引率者・選手及び応援の方々に周知徹底をお願い致します。

会 場：①女子更衣室（1階女子更衣室）

②受 付（2階ロビー）代表者のみ可

③待機場所・練習会場（スポーツ館2F剣道場・3F体育館）

注 意：＊ロビー・廊下・階段等にブルーシートを敷くのは禁止、他の利用者から苦情があり緊急避難時障害になります。

* 弁当・ペットボトルの空きがらは、代表者が責任を持って持ち帰して下さい。

*靴の紛失・間違い。盗難等が有りましたので、名前を書き、ポリ袋等を用意して管理して下さい。(他の持ち物竹刀・剣道具等にも必ず名前を書いて下さい)

